

# 一 西 だ よ り



豊川市立一宮西部小学校通信  
令和 8 年 1 月 23 日 第28号  
発行;校長 村上謙一

## 【学力テストと「見えない学力」】

1/15(木)全学年で算数と国語の学力テストを行いました。1年間学んだことがどれだけできるようになったかを測るのが目的です。返ってきたテストの点数が「見える学力」です。一方で分からなくてもねばり強く時間いっぱいまでテストに向き合った、間違ったところをやり直してできるようになるまで友達と学び合ったなど、主体的に学ぶ態度があったかどうか「見えない学力」です。時間があるのに、わからないところをそのままにしておいてしまった人は「見えない学力」はまだまだということです。

さて、児童のみなさん。みなさんが社会で活躍する頃には、AI がもっとかしこくなり、テストで測れる「見える学力」が必要な仕事は AI にとって代わられているのかもしれません。未来も変わらず必要なのは「見えない学力」の方かもしれません。みなさんの「見えない学力」はどうでしたか。これを評価できるのは自分以外にいません。



## 【原爆体験談】

1/22(木)、6年生が新城市にお住いの黒田様から、ご自身が経験された広島原爆体験のお話を伺いました。

戦争・紛争のニュースが連日メディアをにぎわしています。日本は81年前、約310万の国民の死と引き換えに平和を手に入れました。この悲惨な経験を次代に語り継ぐ取組です。私の祖母は先の大戦で弟を失いました。小学生だった私は、世界最強を誇ったゼロ戦や戦艦大和の勇ましい話を聞いたかったのですが、祖母は決まって飢えと渴きに苦しんで死んでいく弟に、何もしてやれなかった後悔の念しか語りませんでした。その話はいつも祖母の涙で途切れてしまっておしまいでした。今回の黒田さんから、6年生の皆さんは何を学んでくれたでしょうか。

## 【4年生のプロジェクト】

環境学習から、本校から出るごみに牛乳パックが多いことに気づきました。4年生以上はリサイクルしていますが、低学年は牛乳パックを開くのがむずかしいのでリサイクルできていません。そこで、低学年に牛乳パックを開く方法を画像で説明するプロジェクトに4年生が取り組んでいます。

## 【学校評価アンケートの自由記述から】

昨年12月実施の学校評価アンケートについて、多くの皆様にご回答いただきありがとうございます。全国的にコミュニティスクール化が進んでおり、本校も学校運営協議会を設置するとともに、学校評価アンケートの結果を生かした学校改善に取り組んでいるところです。今回は自由記述の回答に寄せられたご心配についてお答えします。

## ★「相談する先生をだれにするのか迷う」

固定的な担任制では、相談先を決める主体は学校でした。相談先は担任です。チーム担任制では子どもと保護者が相談先を決める主体となります。

つまり、適切な相談先を選べる選択肢が生まれたのです。選ぶ必要がない方は、その日の担当が担任としてご相談に乘ります。「〇〇先生お願いします」又は、「〇年〇組の先生をお願いします」と申し出ていただければよいのです。

先生方はどの先生も等しく、一人ひとりの子供のために全身全霊で取組んでいます。しかし、同じ言葉を発しても、受け取り手によってそれが肯定的に響く場合と、そうではない場合があります。また、男性の先生には知られたくないが女性の先生なら話せるといったこともあります。私はそれらをマッチングの影響と考えています。マッチングが合わないのは、どちらかに原因があるということではなく、相性の問題でしょう。この影響を取り去ることができるのがチーム担任制の優位性です。

また、一人の先生に頼り切ることで生まれる依存性には注意しなくてはなりません。私たちが育てようとしているのは「自律した学び手」であり、大人は子どもの「自立」を助けなければなりません。自分の人生を自分で歩めるように導くのです。そのために自己決定の機会を大切に、当事者意識を失わせないようにしています。先生が解決してくれるのではなく、先生の力を(少し～たくさん)借りて自分で解決する、これが自律です。人の力の借り方には、適切な塩梅があります。ここは人それぞれに程度やタイミングがありますので、マッチングのいい先生一人に窓口を絞ることもできます。このように適切な支援の幅をもたせることができるのも、チーム担任制の優位性です。

最初にりますが、ご相談の窓口については、マッチングの良い先生をご指名いただいても、「〇組の先生」とお申し出いただいてもかまいません。